

夢湧く夢に夢中

第6号

令和6年7月5日 文責：大谷

テストとは？ 学ぶとは？

早くも7月を迎えた。そこで、7月初日の朝、さっそく各教室をのぞいてみた。しかし、聞こえてくるのは、普段よく耳にする先生や生徒らの楽しそうな声ではない。戸外から響く「ゴー」という激しい雨の轟音だけだった。そう、学校では1学期の期末考査をまさに迎えていたのだ。

1校時、2年生では社会が行われていた。当たり前だが、みんな真剣で、誰一人として手を止めている者はいない。日頃の授業の中で「何を学んだか」「何がわかったか」そして「どのように学んできたか」を振り返るための機会だ。真剣に向き合い、自分の力を出し切ることで、自己の変容に気づけるのである。テストとは、点数だけではない「奥深さ」があることを、中学校で1年間学んできた2年生は知っているのだろう。これからが楽しみである。

3校時も各教室に足を運ばせていただいた。1階では、1年生が初めてのテストに取り組んでいた。この時間は理科のようだ。頭を抱えながら考え込んでいる人、何か思い出したのか答案用紙に解答を書き込み始めた人、天井を仰ぎ大きく息を吐く人と様々だ。しかし、ここでも諦めている人は見当たらない。初めてのテストに一生懸命取り組む1年生の姿に笑みがこぼれる。

1年生の教室の横でテストの様子を見守る学年主任の佐々木先生に「1年生、頑張っているね」と声をかけると、「緊張していました」とのこと。嬉しいかぎりだ。なぜなら、緊張するということは、つまり努力してきたことを出し切れるかというプレッシャーがあるからであり、まさに努力の表れである。この緊張感をこれからも決して忘れずに、常に緊張感とともに臨むテストであり続けてほしい。

最後に3階へ。さすがだ。そこに張り詰めた空気感は、やはり、2年生のそれとは異なっていた。少し雨脚が弱まったとは言え、依然として降り続ける雨音すら吸収してしまうかのような空気は、最上級生たる証である。そのような中で無神経に廊下を歩き回ることに、申し訳なさを感じつつも、そつと教室内に視線を送ってみた。技能教科である音楽のテストに真剣に取り組む姿があった。わたしも技能教科の一つである保健体育の教師として、期末考査に長年携わってきたが、「他の教科が大変だったので、勉強する時間がなかった」とよく言われたものだ。しかし、ここでは「勉強する時間がなかった」や「技能教科だから…」といった言葉を聞くことはなさそうだと直感した。教科に軽重をつけずに取り組むことは、当たり前なことであるが、8教科ともなると軽重をつけたくもなる。だからこそ、日頃からこのことを想定してコツコツ学ぶことが大切なのだ。3年生の姿から改めて気づかされた。

今回のテストを通じて生徒一人一人が何に気づき、これからどう学ぼうと考えたか。「学ぶ」とは、こうして常に「新たな自分に出会える」ことなのかもしれない。「テストで大変だけど、悪くない」そう思ってくれたら、最高。夢へまた前進。

■先日の引き渡し訓練では、ご協力ありがとうございました。円滑に訓練ができましたことに感謝申し上げます。

■昨日の授業参観、PTA全体会及び学年・学級懇談会へのご参加ありがとうございました。1学期も残りわずかですが、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。